

メスプニュース 第2弾!

今回のテーマ 子宮頸がん検診の推奨

子宮頸がんは、発症原因などが解明されており、検診を定期的に受診することで、ほぼ100%予防できるがんです。これは、検診を受けることで、前がん病変（未病・がんになる前）の段階で発見できるためです。子宮頸がんの発症の原因のほとんどが、HPV（ヒトパピローマウイルス）であり、性体験のある女性の50～80%が感染する、つまり誰もが感染する可能性のあるウイルスです。子宮頸がんの発症年齢が低年齢化していることから、厚生労働省でも2004年から検査の対象年齢を30歳から20歳に引き下げました。

《10年前との違い》

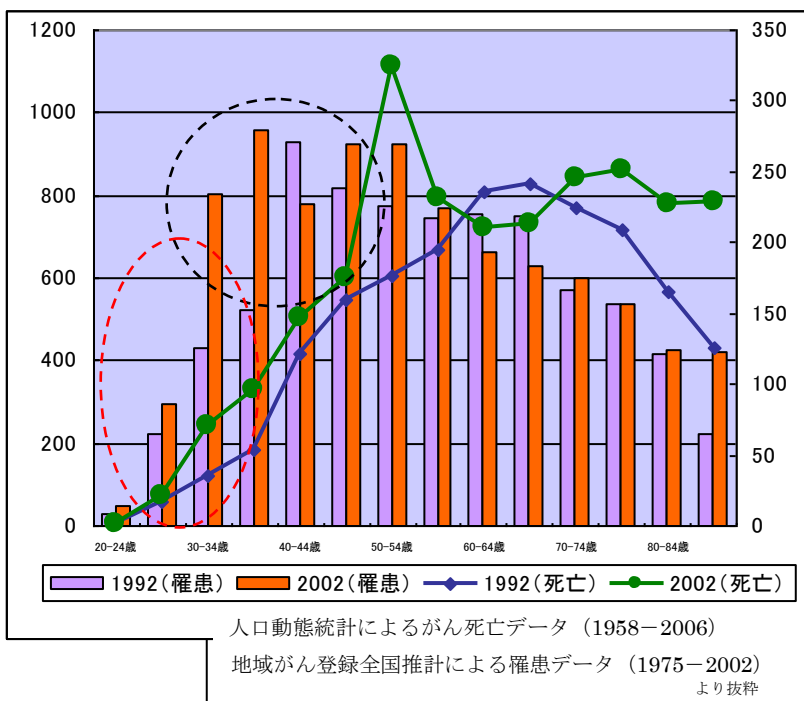
- ①罹患のピークが5～10才若年化
- ②20～30才代での発症と死亡の急激な上昇

《子宮頸がん検診を受けない理由》

- 1) 面倒 2) 時間が無い
- 3) 費用がかかる 4) 恥ずかしい

一般的な理由の1)～3)に加えて子宮頸がん検診の場合4)が加わります。
 病院での受診が嫌だという方にも、まずは受診してもらうことが肝心です。

結婚、出産の年齢が高くなってきている現在、手遅れによる子宮摘出などにならない為に、被保険者・被扶養者の方の、検診への理解を深めていただくことと、受診機会を与えていただけることをお願い申し上げます。



検査師の話：弊社でも6～7月の2ヶ月で10人程に対して“HPV感染細胞を認める”と指導医のDrが診断されました。その中には明らかな前がん病変も認め、そのほとんどが30代前半の未経産の方でした。若い方の関心が高まっているようで、非常に嬉しく思っています。

